

# 室蘭工業大学-学報

NO.659



令和6年度オープンキャンパスの様子  
(13ページに関連記事あり)

2024年 9月号

# 目次

## ◇ トピックス ◇

高頻度な宇宙輸送サービスの実現に向けた「次世代型宇宙港」ワーキンググループに 参画.....	1
室蘭工業大学女子学生特設サイト「YELL」を公開.....	2
本学学生が、International Joint Conference on Rough Sets 2024 (IJCRS 2024) で 「Best Student Paper Award (最優秀学生論文賞)」を受賞.....	3
「Box Japan 大学セミナー」のパネルディスカッションに室蘭工業大学職員がパネリ ストとして参加.....	4
THEインパクトランキング2024に2年連続ランクイン.....	5
第19回International Conference on Aluminum Alloysで本学学生が優秀ポスター賞を 受賞.....	6
生成系AI「Microsoft Copilot for Microsoft 365」の業務実証プロジェクトを始動.....	7
「北洋銀行ものづくりサステナフェア2024」に出展し、室蘭工業大学の取り組みを 紹介.....	8
室蘭工業大学創立75周年記念事業・第31回蘭岳セミナーを開催.....	9
令和6年度第1回 TEAM「ゼロカーボンいぶり」CAFÉに参加.....	10
Box Drive利用者向け操作/セキュリティ説明会を開催.....	11
東京工業大学、室蘭工業大学、九州工業大学主催による宇宙イノベーションフォーラ ムを開催.....	12
令和6年度オープンキャンパスを開催.....	13
OPEN CAMPUS連携イベント(高校生対象)「ビジネスプランニング体験授業」を開催.....	14
北海道・然別地域産の蛍光オパールが光るしくみの解明について.....	16
董冕雄副学長がAAIA から「Fellow」の称号を授与.....	17

## ◇ 情報・資料 ◇

中国・室蘭工業大学第6回中国同窓会活動報告.....	18
----------------------------	----

## ◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ.....	21
奨学寄附金の受入れ.....	22

## ◇ 人 事 ◇

人事異動.....	23
-----------	----

## ◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催.....	24
------------------	----

## ◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事.....	25
----------------	----

## トピックス

# 高頻度な宇宙輸送サービスの実現に向けた「次世代型宇宙港」ワーキンググループに参画

室蘭工業大学は、将来宇宙輸送システム株式会社（東京都中央区、代表取締役 畑田康二郎）が合計17社・1大学<sup>\*1</sup>とともに立ち上げる、高頻度な宇宙輸送サービスの実現に必要な「次世代型宇宙港（NSP：New Space Port）」のあり方を検討するワーキンググループ（NSP-WG）に参画します。

### ※1 参画組織（50音順）

ASTRO GATE株式会社、エア・ウォーター株式会社、株式会社荏原製作所、鹿島建設株式会社、株式会社商船三井、JFEエンジニアリング株式会社、株式会社日本総合研究所、日本無線株式会社、日本郵船株式会社、能美防災株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、三井E&S造船株式会社、三井住友建設株式会社、三井不動産株式会社、三菱HCキャピタル株式会社、三菱倉庫株式会社、国立大学法人室蘭工業大学 内海研究室 他1社

### 次世代型宇宙港（NSP：New Space Port）について

高頻度輸送を実現するためには、宇宙輸送を支えるための拠点が欠かせません。

NSPは、高頻度の宇宙輸送を支えるための拠点として、ロケットの打上げや着陸にはじまり、旅客、見物客、施

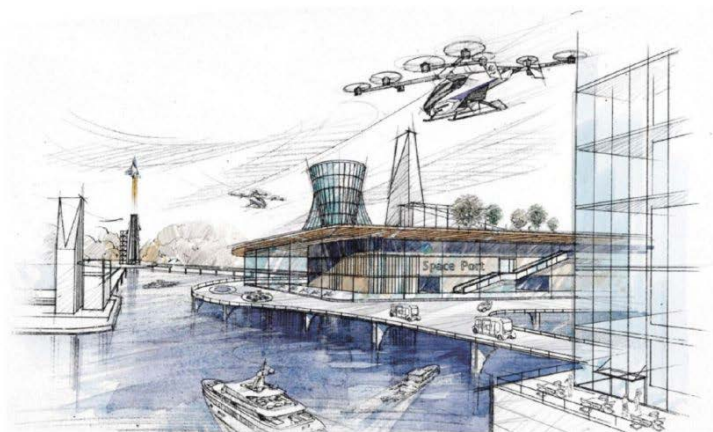
設利用者など幅広い目的で来ていただくことを目指し、モールなどの商業施設、ライブ会場などのエンタメ施設のほか、エネルギー施設や災害対策施設など、宇宙輸送に関わる幅広い施設との組合せを想定しています。

### ワーキンググループ（NSP-WG）について

NSPの可能性を検討するための有期のグループで、7月31日時点で計17社・1大学が加盟しています。（最終的な参加企業数は増加する可能性があります）今後、2025年10月まで、17社・1大学で方向性を定めたくうえで概略の実現性評価（Feasibility Study）を行い、将来的に建設プロジェクトが組成される場合に利用できるような成果物を作成します。

### 室蘭工業大学からのコメント

宇宙ビジネスにおける宇宙開発利用が活発化の一途をたどる中、宇宙へのアクセス手段の多様化、高頻度化、低コスト化などが求められています。宇宙港は宇宙へのアクセスに必須なインフラであり、誰もが宇宙へ往来する時代を見据えた新しい宇宙港の姿を追求し、その実現に貢献したいと思います。



## 室蘭工業大学女子学生特設サイト「YELL」を公開

室蘭工業大学女子学生特設サイト「YELL」を公開しました。

室蘭工業大学では、学生が男女区別なく、誰もがのびのびと過ごせる環境づくりを行っています。その様子をお伝える以下のコンテンツをご用意いたしました。室蘭工業大学は、探究心を持って挑戦する女子高生を応援します。

また、本学の学修環境をより多様化させ、多様な人と

協働し、地域社会や国際社会の発展に貢献する能力を育み、社会で活躍できる女性技術者や研究者の輩出を目指すため、令和7年度の総合型選抜において「女子枠」を創設しました。

- ・室工大女子の声（VOICE）
- ・室工大女子の進路（CAREER）
- ・施設（FACILITY）
- ・よくある質問（FAQ）



YELL - MUROKODAI-Joshi Real Life -  
室蘭工業大学女子学生のリアルな日常を表現したイメージムービーです。  
<https://youtu.be/VteFair3o74>

## 本学学生が、International Joint Conference on Rough Sets 2024 (IJCRS 2024) で「Best Student Paper Award (最優秀学生論文賞)」を受賞

令和6年5月17日～5月20日、ハリファックス（カナダ）で開催の、International Joint Conference on Rough Sets 2024 (IJCRS 2024) へ投稿した論文で、室蘭工業大学大学院工学専攻先端情報電子工学コースの大川創さんが「Best Student Paper Award (最優秀学生論文賞)」を受賞しました。

本賞は、IJCRS 2024における、論文およびプレゼンテーションの内容に基づき選定するもので、下記に示す論文が高く評価されての受賞です。

受賞者および受賞論文題目は、以下のとおりです。  
大川 創（推論システム研究室 D2）「A Vector Is a Granule: A Novel Extension of the Variable Precision Rough Set Model」

### <受賞コメント>

この度の受賞について、大変嬉しく思います。指導してくださった工藤先生や、関連する知見を提供してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

(参考) <https://ijcrs24.cs.smu.ca/>

<https://link.springer.com/conference/ijcrs>



工藤康生教授（左）と大川 創さん（右）



## 「Box Japan 大学セミナー」のパネルディスカッションに 室蘭工業大学職員がパネリストとして参加

令和6年6月5日(水)に株式会社Box Japanオフィス(東京)で開催された「Box Japan 大学セミナー - いま大学にBoxが必要な理由 ~大学利活用事例から新規採用事例までご紹介~」に、本学経営企画課/デジタル・キャンパス推進室の齊藤 雅利副課長がパネリストとして参加しました。

Boxとは世界で11万5千社以上、日本国内では1万8千社以上の企業や団体が利用するコンテンツの管理・共有のためのクラウドサービスで、本学では昨年度11月から全学で導入しています。

パネルディスカッションでは、法政大学、東京女子医科大学の職員の方々と共に、Boxの導入経緯や費用対効果の算出、ユースケース、Box以外のクラウドコンテ

ツ管理ツールとのすみわけ、今後の期待についてディスカッションが行われました。

当日はパネルディスカッションに加えて、グループディスカッションも行われ、他大学との交流から、細かい運用方法、様々な事例等についての情報共有が行われました。

現在、本学ではペーパーレスでの会議運用、学内外提出物のオンライン化等の運用が進んでおり、今後も教職員及び学生のさらなる利用増加等、これまで以上のBoxの活用を目指していきます。

Boxについて詳細は、下記のサイト「Box Square」をご参照ください。

<https://www.boxsquare.jp/>



パネルディスカッションの様子



経営企画課/デジタル・キャンパス推進室の齊藤 雅利副課長



本学からのセミナー参加者

## THEインパクトランキング2024に 2 年連続ランクイン

令和 6 年 6 月 12 日、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (Times Higher Education) から THE インパクトランキング 2024 が発表され、室蘭工業大学は 1501+ 位で 2 年連続のランクインとなりました。総合ランキングにランクインした国立工業系大学は本学と豊橋技術科学大学の 2 大学のみとなっております。また、道内では本学と北海道大学の 2 大学のみがランクインしています。  
<https://www.timeshighereducation.com/impactrankings>  
 「THE インパクトランキング」は気候変動対策やジェンダーの平等、健康と福祉など、国連が SDGs で掲げる 17 の各目標について、研究、管理責任、アウトリーチ

(現場における実践)、教育という広範な 4 分野にわたる大学の取り組みをランク付けし、サステナビリティにおける大学の貢献度を示すランキングです。

SDGs 別では、本学は特に SDG6 (清浄水と衛生)、SDG11 (持続可能な都市およびコミュニティ)、SDG12 (責任ある消費と生産) が高く評価されています。

室蘭工業大学は今年度から『真なる探究心から未来の価値づくりを。』を新たなキャッチコピーとして、延べ 40,000 人余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。



### Times Higher Education Impact Rankings 2024

	総合 1501+ 位 (日本国内 59 位タイ)
	401-600 位 (日本国内 26 位タイ)
	601-800 位 (日本国内 36 位タイ)
	301-400 位 (日本国内 17 位タイ)
	1501+ 位 (日本国内 63 位タイ)

## 第19回International Conference on Aluminum Alloys で 本学学生が優秀ポスター賞を受賞

本学工学研究科生産システム工学専攻の学生が令和6年6月23日-27日に開催されたInternational Conference on Aluminum Alloysで優秀ポスター賞を受賞しました。同国際会議はアルミニウム合金の科学と技術に関する世界有数の国際会議です。1986年の創設以来、2年に1回開催され、アルミニウムの最先端の研究、技術、応用に関する交流と議論のための活発なフォーラムを提供しており、大学、研究機関、産業界から多様な参加者が集まります。

米国アトランタで開催された今回は、ポスターセッションに24件のエントリーがあり、うち4件が優秀ポスター賞に選ばれました。4名中2名が本学の材料加工工学研究室（安藤准教授研究室）の学生という快挙でした。

### 【受賞コメント】

青野竜也：この度は、このような栄誉ある賞をいただき、大変嬉しく思います。この研究にご協力いただいている指導教員の安藤先生や先輩の荒木さん、そして、共同研究者の方々の支えに深く感謝いたします。

遠藤柊翔：この度は国際学会においてこのような賞を頂き、大変光栄に思います。本受賞は安藤先生を始めとした共同研究者の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。今後も研究活動に邁進していく所存です。



右から軽金属学会：平野清一会長（株式会社UACJ特別顧問）、同：佐々木 元副会長（広島大学教授）、遠藤柊翔さん、青野竜也さん、安藤哲也准教授



## 生成系AI「Microsoft Copilot for Microsoft 365」の業務実証プロジェクトを始動

令和6年7月22日(月)に生成系AIの業務活用・事例創出を目的として、生成系AI「Microsoft Copilot for Microsoft 365 (以下、Copilot for M365)」の業務実証プロジェクトを始動しました。また、実証に伴い、日本マイクロソフト株式会社(本社：東京都港区)と共催で「DX推進セミナー～AIとCopilotが切り開くデジタルトランスフォーメーション～」と題したセミナーを室蘭工業大学本部棟3階大会議室で開催しました。

「Copilot for M365」とは、Microsoft Corporation(本社：米国ワシントン)が提供する生成系AIで、Microsoft 365に組み込まれているSaaS系生成AIなので、開発が不要ですぐに使い始めることができます。また、本AIは本学の業務でも利用しているWordやExcel、PowerPoint等のMicrosoft 365内のアプリで利用することができ、会議の要約やメール文案の作成等、日常業務の効率化が期待できます。さらに、ユーザーデータや組織内データを保護しており、AIモデルの学習にも利用されることなく、組織内データの流出を防ぐ等、高いセキュリティ環境下で利用可能となっています。

セミナー前半では、本学デジタル・キャンパス推進室の佐藤室長から「Copilot for M365を利用して、皆さんの仕事のクオリティをもう1段上げることに繋がれば

良い」と挨拶があった後、日本マイクロソフト株式会社の服部友貴氏から「Copilot for Microsoft 365のオンラインデモ/活用事例」と題してCopilot for M365とは何か、使い方や利用する上でのポイントについて説明がありました。セミナー後半は本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤雅利室員から「生成系AI実証プロジェクト～AI時代の働き方未来像～」と題して生成系AIや本学でこの度行うCopilot for M365実証プロジェクトについて、本学での使用上の注意、AI時代の働き方及び今後の職員像についての講演が行われました。

セミナー後のオンラインアンケートでは、「生成系AIによる成果物の活用については、活用する側の認識も重要であることを実感しました。」といった意見が寄せられました。実証は今年度10月末まで行われる予定で、「Copilot for M365」の業務利用に関する知見をため、導入の可否等について検討を行う予定です。

※Microsoft、Excel、PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft 365は、Microsoft Corporationが提供するサービスの名称です。



デジタル・キャンパス推進室佐藤室長からの挨拶



日本マイクロソフト株式会社服部氏による講演



デジタル・キャンパス推進室齊藤室員による講演

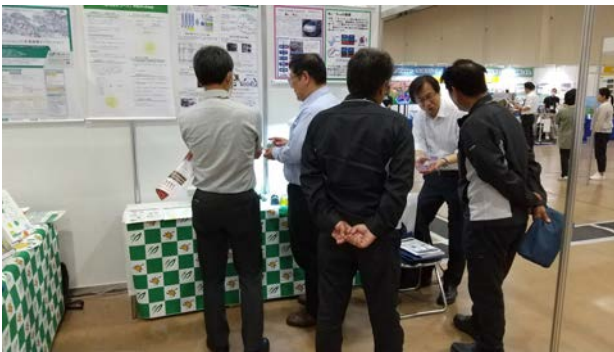


熱心に説明を聞く職員

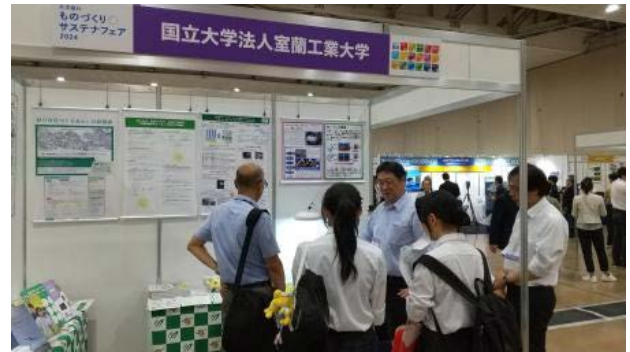
## 「北洋銀行ものづくりサステナフェア2024」に出展し、 室蘭工業大学の取り組みを紹介

令和6年7月24日(水)アクセスサッポロで開催された“つくる、つながる、つづく～ものづくり産業が支える北海道の成長へのチャレンジ～”をテーマとした「北洋銀行ものづくりサステナフェア2024」に出展し、ものづくり産業の企業関係者や、高校、専門学校等の学生に向けて室蘭工業大学の取り組みを紹介しました。

本学の出展ブースには100名を超える来場者が訪れ、希土類材料研究センター長の関根ちひろ教授と葛谷俊博准教授による「色が変わる希土類ガラス」の紹介や、航空宇宙機システム研究センター、数理データサイエンス教育プログラム、共創情報学コースなどの紹介を行いました。



関根センター長と葛谷准教授から  
「色が変わる希土類ガラス」の説明を受ける来場者



企業関係者や高校生が多数来場



出展ブース全景

## 室蘭工業大学創立75周年記念事業・ 第31回蘭岳セミナーを開催

第31回蘭岳セミナーを、令和6年7月26日(金)に室蘭工業大学 教育・研究1号館A304講義室とオンラインのハイブリット形式で開催し、教職員、学生及び市民約100名が参加しました。

今回は、大阪大学基礎工学研究科附属極限科学センター教授の清水克哉氏を講師に招き、「圧力をかけると

なんでも超電導に？」と題して、実験装置を用いた実演を交え、研究内容をわかりやすくご講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。講演後の質疑応答では、会場の参加者からの質問に対して丁寧な説明があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



講演する清水氏



会場の様子

## 令和6年度 第1回 TEAM「ゼロカーボンいぶり」 CAFÉに参加

令和6年7月29日(月)に胆振総合振興局が「だて共成長オフィス」で開催した令和6年度第1回 TEAM「ゼロカーボンいぶり」CAFÉに山中真也教授、山田祥子准教授、石橋弘之特任准教授が参加しました。山田祥子准教授からは「社会的インパクトと地域共創について」、

山中真也教授からは「伊達SIPについて」それぞれ話題提供を行いました。

その後、参加者の胆振地域の自治体関係者等と交流を行いました。



話題提供する山田准教授



話題提供する山中教授



参加者と交流する様子



## Box Drive利用者向け操作/セキュリティ説明会を開催

令和6年7月26日(金)にBox Driveについて理解し、そのリスクを認識することで安全に利用することを目的とした、Box Drive利用者向け操作/セキュリティ説明会を室蘭工業大学本部棟3階大会議室で開催しました。

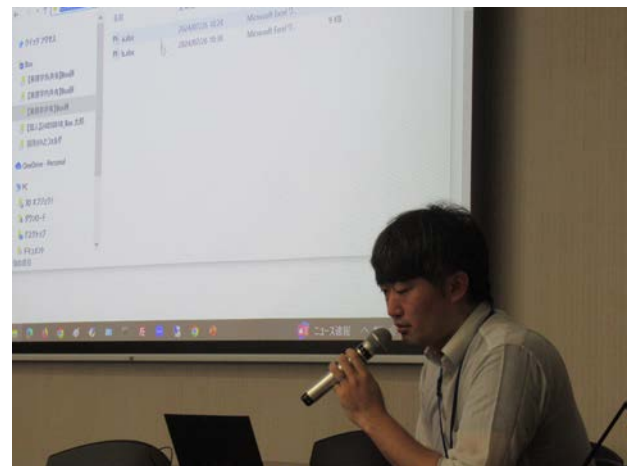
Boxとはコンテンツの管理・共有のためのクラウドサービスであり、Box Driveは本サービスをエクスペローラー感覚で利用できるツールとなっています。本ツールを利用することで、本学で利用している業務自動化ツールの利用がBox上で可能になる等のメリットがある反面、誤操作による情報漏洩等のリスクもあります。

説明会の講師は本学デジタル・キャンパス推進室のBoxタスクフォースメンバーが務めており、Box Driveとは何か、デメリット及び利用上の注意についての説明を行いました。また、説明会終了後には確認テストが行われ、本テストに合格した参加者にはBox Driveの利用権限が付与されます。

本説明会は今後も継続して開催する予定であり、Box Driveの安全な利用を促進するとともに、業務改善につなげていきます。



デジタル・キャンパス推進室佐藤室長からの挨拶



技術部/デジタル・キャンパス推進室相馬室員による説明



説明を受ける職員

## 東京工業大学、室蘭工業大学、九州工業大学主催による 宇宙イノベーションフォーラムを開催

令和6年8月1日(木)に東京都京橋エドグランのartience株式会社インキュベーションセンターにおいて、東京工業大学、室蘭工業大学、九州工業大学主催による宇宙イノベーションフォーラムを開催しました。このフォーラムは、昨年12月22日に締結した「室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による科学技術に関する産学・人材育成連携覚書」に基づき開催したもので、令和6年5月に北九州市で開催したシンポジウムに続き、今回が3回目となります。

フォーラムには、本学から増田理事・副学長、もの創造系領域 航空宇宙総合工学ユニットの今井教授、奥泉准教授、長川事務局次長、吉成学長補佐などが参加しま

した。今井教授は「宇宙機の推進薬供給システムの熱・流体問題」、奥泉准教授は「宇宙展開膜面構造物の研究課題」について講師を務めました。

懇親会挨拶において増田理事・副学長からは、「今後も三工大それぞれの特性を活かした連携を進め、オープンイノベーション等を通じた社会実装に繋げていきたい」との発言がありました。

本学は、東京工業大学、九州工業大学との連携を進め、関係自治体や金融機関、企業等の協力も得ながら、我が国と世界の産業の発展を支える新しい理工系や科学技術領域の研究、産学連携、および先導的な教育・人材育成のさらなる推進を図ってまいります。



フォーラムで開会挨拶する  
東京工業大学 渡辺理事・副学長



講演する今井教授



講演する奥泉准教授



フォーラムの様子



懇親会で開会挨拶する増田理事・副学長

## 令和6年度オープンキャンパスを開催

令和6年8月3日(土)、室蘭工業大学キャンパスで令和6年度オープンキャンパスを開催しました。当日は、札幌市や室蘭近郊の高校生を中心に、ご家族の方を含めて1,008名が参加しました。

午前、午後にあわって、各学科、コースによる模擬講義、体験学習・実験などで構成される「オープンラボトリ」、バスに乗って大学周辺をまわりながら学生寮や教育研究センター等を見学する「キャンパス周辺バスツアー」、女子学生寮や図書館等を散策して見学する「歩いて見学」を開催し、参加者の皆様には本学で行われている研究や教育内容等について、直に触れることで理解を深めていただきました。

体育館・大会館・N棟に設けられた学科紹介等企画では、デモ展示やパネル展示による教育・研究内容や卒業後の進路等を紹介しました。また、保護者説明会では、現役学生の様子や生の声が紹介され、多くの参加者が説明に聞き入っていました。

このほか、「入試相談・奨学金ブース」、「受験生応援企画」、「室工大生と話そう」のコーナーを設け、多くの方がブースに立ち寄り、過去の試験問題等のお持ち帰りコーナーでも用意した部数がなくなるほどの盛況ぶりでした。また、今年度からの新企画として「理系を目指す女子高生が最も知りたい、室工大リケジョのキャンパスライフ!」が行われ、現役の室工大生と女性教員がキャンパスライフについて語る「室工大リケジョ対談」や「理系を目指す女子高生、保護者向けのカフェ座談会」には多くの女子高生やご家族が参加されました。

参加者からは、「教育内容を聞いたり、実際に体験し

てみたりできてとても良かった」「大学の雰囲気の良いがわかった」など多くの声が寄せられ、大変好評のうちに終了しました。

【令和6年度 室蘭工業大学オープンキャンパス  
ダイジェスト動画】



オープンキャンパス オリエンテーションの様子



## OPEN CAMPUS連携イベント（高校生対象） 「ビジネスプランニング体験授業」を開催

令和6年8月5日(月)にOPEN CAMPUS連携イベント（高校生対象）「ビジネスプランニング体験授業」を室蘭工業大学学生会館多目的ホールで開催しました。講師には、パナソニックITS株式会社代表取締役の田辺孝由樹氏、同社室蘭開発室室長の佐藤慎吾氏をお招きしました。

はじめに、アイスブレイクでは、マシュマロチャレンジ（パスタ、テープ、ひも、マシュマロを使って自立可能なタワーを立てるチームビルディングの為のゲーム）に挑戦し、チーム毎に役割分担を決めて協力しながら作業を進め、各チームが工夫を凝らして制作したタワーは、その高さや構造の斬新さに、講師たちは驚いていました。なお、制作したタワーはほとんどが体験授業終了時まで自立しており、完成度の高いタワーが多くありました。

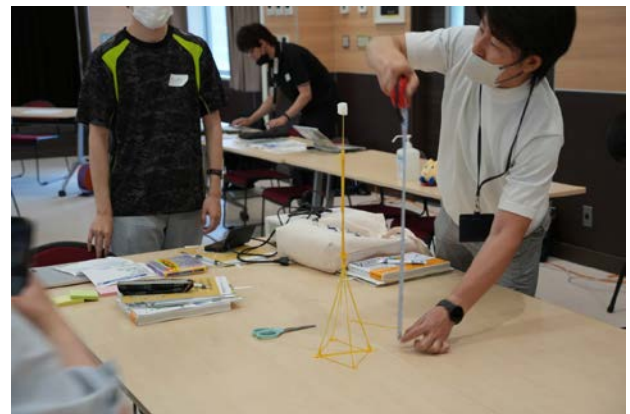
続いて、講師から、パナソニックITS株式会社実践する夢プロジェクトや室蘭MaaS、ビジネスモデルキャンパスについてご講演いただきました。

午後からは、実際のビジネスモデルの検討を行うグループワークを実施しました。各チームには、パナソニックITS株式会社の社員の方とビジネスモデルキャンパスを学んだ本学学生が1名ずつコーディネーターとして参加し、最終的な発表を目指してビジネスモデルキャンパスの各項目について、チーム内で議論しながら、ビジネスモデルキャンパスを完成させました。

最後に、チーム毎に完成させたビジネスモデルキャンパスについて発表を行いました。講評では、松田学長から、それぞれのチームに対して賞賛の言葉が贈られていました。



マシュマロチャレンジの様子



田辺氏の講演



佐藤氏の講演





グループワークの様子



グループワークの様子



講評の様子

## 北海道・然別地域産の蛍光オパールが光るしくみの解明について

室蘭工業大学大学院工学研究科・飯森俊文 教授らの研究グループは、北海道・然別地域産の蛍光オパールが光るしくみの解明について研究成果を発表いたしました。

### 研究のポイント

- ・紫外線をあてると蛍光を発して光るオパールが然別（しかりべつ）地域で産出する。
- ・光るオパールは世界的にも珍しく貴重であるが、オパールが光るしくみはこれまで不明であった。
- ・オパールに有機溶媒を加えると蛍光の色が変化することを発見した。
- ・研究によりオパールの蛍光の起源は有機分子であることをつきとめた。
- ・本研究は然別火山群の歴史の解明につながることを期待される。

### 概要

紫外線を当てると発光する鉱物は世界各地で発見されていますが、発光の起源は主に金属イオンであることが知られています。然別地域産の蛍光オパールはこれまでに国内外の研究者らによって調べられてきましたが、発

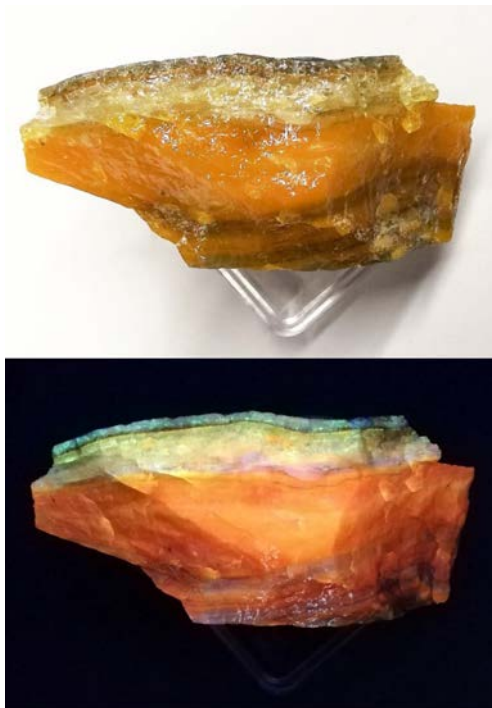
光のしくみと結晶構造は未解明でした。本研究では、オパールにアルコールなどの有機溶媒を加えると発光物質がオパールから溶媒に抽出され、発光色が変わることを発見しました。オパールと抽出物の蛍光スペクトル解析や蛍光寿命測定の結果、発光は金属イオンではなく、ほぼ間違いなく有機分子に由来することを明らかにしました。またオパールは非晶質（アモルファス）状態の固体であることも明らかになりました。有機分子の鉱物は世界的にも珍しく貴重であり、然別火山群の歴史の解明につながることを期待されます。

### 論文発表

本研究の成果をまとめた論文は、日本鉱物科学会が発行する英文誌であるJournal of Mineralogical and Petrological Sciences に掲載が受理されており、2024年8月8日(木)に電子ジャーナル早期公開サイトに公開されております。

雑誌名：Journal of Mineralogical and Petrological Sciences  
論文タイトル：Fluorescence spectroscopy of opal from the Shikaribetsu area, Shikaoi, Hokkaido

DOI: 10.2465/jmps.231215



北海道・然別地域産の蛍光オパール

## 董冕雄副学長がAAIA から「Fellow」の称号を授与

令和6年8月、董冕雄副学長（しくみ解明系領域・教授）がAsia-Pacific Artificial Intelligence Association (AAIA) から「Fellow」の称号を授与されました。

### Asia-Pacific Artificial Intelligence Association (AAIA) :

アジア太平洋人工知能協会 (AAIA) は2021年に香港で設立された学術的、非営利、非政府組織です。学術研究、学術交流、科学教育、科学展示会、学術会議、学術出版、サマー／ウィンターキャンプ、その他の活動を通じて、世界中のAIおよびその他の分野の科学者を強化し、AIの開発と応用を促進することを目的としています。加えて、AI海洋、AI輸送、AIコンピューティング、AI通信、AIロボット、AI教育、AI農業、AI金融、AI医療、AIエネルギー、および数十のAI応用分野を含む幅広いAI産業の構築を目指しています。

AAIAの「Fellow」には、AI分野のトップレベルの科学者や企業家が選ばれています。

### 所属大学 :

東京大学、スタンフォード大学、プリンストン大学、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア工科大学、コーネル大学、コロンビア大学、オックスフォード大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、トロント大学、ウォータールー大学、メルボルン大学、シドニー大学、南洋理工大学、シンガポール国立大学、北京大学、清華大学、上海交通大学

### 所属学会 :

日本工学アカデミー、米国科学アカデミー、米国工学アカデミー、欧州アカデミー、中国科学アカデミー、中国

工学アカデミー、カナダ工学アカデミー、英国工学アカデミー、シンガポール工学アカデミー

### Fellow:

IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers)、ACM (Association for Computing Machinery)、AAAI (Association for the Advancement of Artificial Intelligence)、IAPR (International Association for Pattern Recognition)

### AI関連企業 :

Google、Microsoft、IBM、Alibaba(アリババ)、HUAWEI (ファーウェイ)、JD.com等

関連URL : Asia-Pacific Artificial Intelligence Association (aaia-ai.org)

### 受賞コメント :

この度、AAIA Fellowという名誉ある称号をいただき、大変光栄に思います。この受賞は、私個人の努力だけでなく、室蘭工業大学での研究と教育活動、そして私を支えてくださった多くの方々のご尽力によるものです。

特に、この道を共に歩んでくれた家族に対して、深い感謝の意を表したいと思います。日々の研究に没頭できたのも、家族の理解と応援があったからこそです。

また、室蘭工業大学という素晴らしい環境で、共に学び、挑戦し続けた学生や同僚の皆様にも感謝申し上げます。AI技術の未来を切り拓くために、これからも一層の努力を重ね、世界に新たなインパクトを与える研究に邁進してまいります。



董冕雄副学長（しくみ解明系領域・教授）



「Fellow」の称号

## 中国・室蘭工業大学第6回中国同窓会活動報告

坂本 裕子、永利 卓、戎 修二、増田 隆夫

### 1. はじめに

2024年8月16日～19日の旅程で、本学の増田 隆夫・副学長・理事・国際交流センター長、戎 修二・しくみ解明系領域教授・室蘭工業大学同窓会理事長、永利 卓・国際交流室国際企画係係長、坂本 裕子・国際交流センター准教授が室蘭工業大学第6回中国同窓会に出席してきましたので、その様子を記します。

### 2. 室蘭工業大学中国同窓会概要

2010年、河南省鄭州市で第1回目となる室蘭工業大学中国同窓会が開催されました。以降1、2年おきに内モンゴル赤峰市、雲南省大理市、浙江省寧波市、河南省焦作市で同窓会が開催され、今回の上海で6回目の開催となります。中国同窓会には、毎回、本学から国際交流センター教職員と本学同窓会理事長が参加してまいりました。前回、2019年の第5回同窓会は、河南理工大学創立110周年記念式典と併せて開催され、本学から、当時副学長でした松田現学長が代表団代表として参加されました。

今回、2020年に始まる新型コロナウイルス感染症により絶たれた人的往来が回復して以来、初めての対面での同窓会となりました。開催に先立ち、本年3月に中国同窓会新旧幹事と本学教職員によるオンライン交流が行われました。その際、新型コロナウイルス感染症の影響で、中国同窓会会員間の交流も希薄になってしまっていると伺いました。世界中のさまざまな分野で、パラダイムシフトが起こる中、本学中国同窓会においても、新体制で組織整備が行われ、鄭 永輝・中国同窓会会長を中心に、卒業生の絆を深め、これまで以上に活動を盛り上げていこうということで、第6回となる中国同窓会が行われる運びとなりました。

### 3. 第6回中国同窓会

上述の通り、第6回目となる交流会は、中国上海において2日間の日程で行われました。会場には、北は内モンゴル自治区、南は広東省から、遠路はるばる12名の同窓生が集い、オンラインでも16名の同窓生が参加したほか、本学在学中の中国人学生により組織される中国学友会から隋 子昂会長はじめ、4名の在校生が参加しました。日本から参加予定の同窓生もいましたが、台風7号の影響で航空便が欠航となり、欠席を余儀なくされました。

初日の17日の同窓会は鄭会長の挨拶から始まりました。同窓生の自己紹介では、日本留学期間や指導教員、近況等が共有されました。第1回、第2回同窓会会長を務められた満都拉氏は、在学時の状況を振り返り、当時は中国人留学生が20名ほどだったこと、室蘭市民に向け、内モンゴルに対する理解促進のための活動と内モンゴルの子供たちへの支援活動をしていたことが共有されました。

その後、鄭会長から、中国同窓会の体制と今後の活動ビジョンについて、説明がありました。まず、中国同窓会の組織整備を行い、地域単位で同窓生の連携を高めること、会則を定め、同窓会の維持と年1度の同窓会での有意義な交流活動を可能にすること、これらの実現のため、中国同窓会交流プラットフォーム作成を計画していることが示されました。それにより、同窓生間だけでなく、在学生との間でも交流機会が創出され、日中間の学術交流、ビジネス交流、在学生への支援による母校への貢献が期待できるとお話しされました。

引き続き、増田理事・副学長・国際交流センター長が、本学代表として、これまでの中国同窓会の歩みを振り返り、交流会の継続に感謝をお伝えしました。そして、本学の留学生を取り巻く環境がよりよいものとなり、次世代を担う優れた技術者と研究者の育成、日本と中国の友好親善、日中関係の発展への貢献のために、同窓生にこれまで以上の支援と協力



を依頼しました。

戎教授・室蘭工業大学同窓会理事長からは、本学の近況と日本における一般社団法人室蘭工業大学同窓会の活動状況をご報告しました。参加した同窓生は、中国の大学で教鞭を執っていたり、日系企業や国の研究機関等で活躍したりしており、今後の本学との連携や協力に関して、高い関心と期待が寄せられました。

翌18日にも、今後の中国同窓会の活動と本学との交流に関する協議が行われました。日中の大学間における学術交流、本学を含めた大学と企業間の産学連携、優秀な学生への本学紹介、中国同窓会による在校生への支援に対し、具体的な方策が示されました。

また、中国同窓会の要請により、これまで中国同窓会顧問を務めてこられた板倉 賢一先生、山路 奈保子先生に代わり、増田国際交流センター長、戎同窓会理事長が顧問に就任いたしました。



写真1. 同窓会新体制について説明する鄭 永輝会長



写真2. 在学時の活動を振り返る満都拉初代会長



写真3. 増田国際交流センター長による本学代表挨拶



写真4. 戎教授による本学近況報告と日本の同窓会活動紹介



写真5. 李 瑞華・中国同窓会副会長への記念品贈呈



写真6. 参加者との記念撮影



写真7. 上海外灘での記念撮影



写真8. 増田国際センター長による閉会挨拶

### 3. おわりに

新型コロナウイルス感染症が収束し、4年ぶりの中国同窓会開催となりました。また、国際交流センターも新体制となり、新たな局面を迎えました。これまでのように、旧知の教職員が参加しての同窓会とは性質は異なりましたが、中国同窓会の皆さまと今後の交流や協力について前向きなお話ができただことは、大変意義深いものと思料いたします。

最後になりますが、本学代表団の訪問に際して、温かく受け入れてくださった中国同窓会の皆さまに深謝申し上げます。

## 外部資金

## 民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 准教授 大石 義彦	中 小 企 業	2,482
もの創造系領域 准教授 奥 泉 信 克	中 小 企 業	7,150
もの創造系領域 准教授 中 田 大 将	独立行政法人	3,960
しくみ解明系領域 教 授 亀 川 厚 則	大 企 業	6,000
しくみ解明系領域 特任教授 岸 上 順 一	大 企 業	4,000
合 計 (5 件)		23,592

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

## 奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
富士化学株式会社	工学研究助成	300
一般社団法人北海道環境保全技術協会	寄附講座	1,000
株式会社ドーコン	工学研究助成	500
公益財団法人日揮・実吉奨学会	工学研究助成	2,000
公益財団法人永守財団	工学研究助成	1,100
個人寄附者（1件）	工学研究助成	10
合 計（6件）		4,910



## 人 事

## 人 事 異 動

国立大学法人  
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和6年8月31日	〈任期満了〉	高 橋 信 夫 増 江 亜佐緒 空 閑 良 壽	監事（非常勤） 監事（非常勤） 大学院工学研究科特任教授
令和6年8月31日	〈辞 職〉	岩 田 実	大学院工学研究科教授 （ひと文化系領域） 兼務：保健管理センター
令和6年9月1日	〈任 命〉 監事（任期：R10.6.30） 監事（非常勤）（任期：R10.6.30）	相 田 俊 一 谷 口 雅 子	
令和6年9月1日	〈命〉 保健管理センター所長（任期：R8.3.31）	桃 野 直 樹	
令和6年9月1日	〈採用〉 コンピュータ科学センター 特定専門職員 大学院工学研究科 事務補佐員	谷 口 奈 美 中 山 梨 花	
令和6年8月21日	〈雇用期間更新〉 大学院工学研究科 事務補佐員	杉 本 さ 恵	
令和6年9月1日	大学院工学研究科 事務補佐員	福 山 愛 美	

## 学内会議

### 学内各種委員会等の開催

< 7月25日～8月24日 >

**開催日時** 令和6年7月30日(火)  
**会議名** 第8回企画戦略会議

## 学内行事

- 7月26日(金) 室蘭工業大学創立75周年記念事業・第31回蘭岳セミナー
- 8月3日(土) 令和6年度オープンキャンパス
- 8月13日(火) 全学一斉休業(15日まで)

## 学外行事

- 8月1日(木) 宇宙イノベーションフォーラム(東京・ハイブリット)
- 8月4日(日) 夏の進学相談会in東京(東京)(10日(土)にも開催)
- 8月7日(水) こども霞が関見学デー「科学屋台」を出店(東京)

## 編集後記

---

- ◆ 本学の正門が令和 6 年 9 月に、リニューアル工事を行うこととなりました。入学式や卒業式の写真スポットとして、皆様にもなじみのある本学の風景の一つであったと思います。昭和48年 3 月に改修されて以降、50年にわたり本学の正門でありつづけました。お疲れさまでした。



(Garoon : 総務広報課秘書広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行

室蘭工業大学総務広報課  
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所

株式会社日光印刷  
電話 0143-47-8308